

西産発第 4090 号

平成 20 年 10 月 24 日

国土交通省道路局長 様

熊本県阿蘇郡西原村長 日置 和彦



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号でご依頼のありました、標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊本県西原村

これまでの道路整備は、経済成長と共に国民生活の向上に大きく寄与してきた。その反面、交通需要の急激な伸び等に対応できておらず、車優先の道路整備を進めてきた結果、人、生活の視点から考えると渋滞対策、交通安全に対する課題も多いように思う。

全国的に見ると、道路整備に対するニーズは依然として大きく地域によっては、緊急性の高い重要路線もあるように思う。市町村のニーズを的確に把握し、事業目的及び社会的な効果を投資する判断をする必要がある。

市町村の道路整備の必要性は今後も変わらないが、目標設定・内容・効果等について、十分な説明、効果的な事業展開が必要である。

道路特定財源制度については、揮発油税等の自動車利用者の負担により国民の理解を得て財源を確保して道路整備に寄与してきた。現在の厳しい財政事情を考えれば、本制度の堅持が必要であると思うが、道路特定財源が「職員用マッサージチェア」購入等に使用するなど無駄遣いは省くべきである。

今後の道路行政についての意見・提案

② - 1 地域の現状と抱える課題

様式②

熊本県西原村

○現状

西原村の道路整備改良率は33%程度で全国平均55%程度、熊本県平均52%より著しく低くなっている。このことは、まだ未整備区間の道路が多きことを表している。

西原村内には、主要地方道熊本高森線、一般県道山西大津線、堂園小森線の3本の県道が走っている。熊本高森線については、ほぼ改良済であるが山西大津線については、バイパス案の用地買収がほぼ完了している状況である。堂園小森線については、俵山トンネル開通（平成15年10月）後通行車両が多くなり、休日等において渋滞がひどくなっている状況である。道路改良に向けての用地買収が始まったところである。

村道については、各地区要望等を踏まえて少しずつ改良を進めている状況である。

○課題

道路整備改良率は、低い水準であるが、年次計画等により改良率をいかに効率よく上げられるかが課題

一般県道の山西大津線については用地買収終了後、バイパス工事の早期着工及び早期完成ができるかが課題。

堂園小森線については、効率的な整備ができる様な予算計上ができるかが課題。

主要地方道熊本高森線、一般県道、山西大津線・堂園小森線の道路整備が完了すれば西原村の南北、東西方向が結ばれることになる。

西原村の道路の将来像は、県道と接続する村道、集落と集落を結ぶ村道等があるが、利便性、安全性からみて満足 of いく道路は多くない。限られた道路整備年間予算の中で、各地域との連携を図りながら、危険箇所の整備、交通事故防止（特に児童・生徒が安全に通行できる）にむけた道路整備等を行いたい。

できる限り既存道路の有効活用を行い、道路整備の優先順位を明示しながら、効率的な整備に心がけたい。

また、西原村は、平成17年に道路愛護の「地域活動部門」で国土交通大臣より表彰を受けている。地域住民と一緒に、村内の道路愛護に更に取り組みたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

熊本県西原村

○重点事項	○代表事例	○課題	○その他
	なし		